

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21 年 3 月 6 日
調査実施の時間	開始 10 時 00 分 ~ 終了 15 時 00 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム望 (大分県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>西嶋 勝子</u>
	氏名 <u>蛭子 剛</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>児玉 寿美</u>
	ヒアリングを行った職数(2)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月6日

【評価実施概要】

事業所番号	44700500572
法人名	社会福祉法人 長陽会
事業所名	グループホーム望
所在地	〒 876-1511 大分県佐伯市大字長良4952番地 (電話) 0972-28-3322
評価機関名	特定非営利活動邦人 第三者評価機構
所在地	〒870-0025 大分市顕徳町2丁目1番5号
訪問調査日	平成 21年 3月 6日

【情報提供票より】21年 3月 1日))

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 13 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	(人	常勤 6 人, 非常勤	人, 常勤換算 6 人

(2)建物概要

建物構造	木造2階建て 造り
	2階建ての 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 320 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		880 円

(4)利用者の概要(3 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2		2 名	
要介護3	2 名	要介護4			名
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳		最高 91 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 松下医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人所有の広大な田畑を有し、四季を通じて利用者と職員共同で栽培された米、野菜を食卓に供することで話題づくりや、食への喜び、生きる楽しみを啓発している。
山嶺を望む田園風景の中にあつて、ゆったりとした居住空間と風格のある和風の佇まいは住む人への心使いがみられる。
エンターテインメントとして、ボランティアの受け入れに積極的であり、極めて多彩なプログラムである。
災害時対応の非難場所、訓練、備蓄等も行き届いている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価結果は、運営推進会議に提示すると共に、全職員の意見集約を図り、より良い質の向上を目指したサービスの指針としてつ、柔軟性を持った活用にも留意している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各人に配られた自己評価票に個別記入して、仕事の合間を縫いながら全員で評価内容に対する検討を行い、学習を深める機会としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一回開催している。 地域からの災害不時への協力要請をすると共に、前回の懸案事項の経過報告や外部評価結果に対する意見交換、参加者からの気付きも記録して質の向上に役立っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月発行の広報誌には、活動計画やその情報を写真と共に掲載され、家族宛には写真を同封している。金銭出納については職員間で確認し合い、必要なものがあればその時に報告している。家族会は毎月開催されており、お互い壁を取り払った率直な関係作りを推進している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 民間ボランティアを積極的に受け入れ、演奏会や舞踊、大正琴等が週に2, 3回開催されている。 市主催の春祭りでは竹灯籠作り奉仕や法人夏の素麺流し、盆踊り大会等は家族はもとより市民からも期待される年間企画となっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「地域の中で地域と共に生きる」の馴染む関係を深めつつ、さらに「挨拶・笑顔・掃除」を掲げ、その人らしく生きるための支援の一環として地域住民、家族との結びつきを大切にしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や毎日のミーティングで全職員の理念周知の徹底を図っている。日常生活の中にも、基盤とする理念を意識した対応が行われている。		
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民間ボランティアによる演奏会や舞踊会等が週2回以上苑内で開催されている。又春祭りの竹灯籠作り奉仕や、法人年間企画である素麺流し、盆踊り大会、運動会等では家族はもとより市民からも期待される行事となっている。		
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの自己評価は仕事の合間を縫って全員で話し合っている。外部評価結果は、より質の向上を目指すサービスの源として、柔軟性を持った活用をしている。		
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。前回の懸案事項の経過報告のほか、外部評価結果の話し合いや災害不時の協力要請、参加者側からの気付きや意見を集約記録してサービスの改善に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市主催の地域ケア会議には必ず出席をして連携に勤めている。しかし日々繰り返される介護現場の現状を、実感として知って頂く為の市職員による出向く視察をも希望している。</p>	○	<p>市職員による、一日又はパートの体験研修受け入れ等を提案して、日々の実例や案件を共感しつつ、理解をより深め合うことを期待します。</p>
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月発行の広報誌には、月間活動計画や明るい行事写真、職員の異動等も掲載され、家族宛には個々の近況を添えて送付している。金銭出納帳も職員間で確認しあったうえで、購入希望の品があればその旨を添えて家族へ報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の会は毎月開催されており、壁を取り払った率直な関係作りを推進している。現在、装い方にこだわり続ける重度認知症利用者の実状と対応について家族と話し合っている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>月刊広報誌に、職員異動の知らせを載せて、家族への周知を図っている。日ごろから異動で受けるダメージ防御を心がけており、利用者が職員の異動によって受ける動揺は最小限に抑えている。</p>		
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じた内部研修及び外部研修の年間計画も組まれていて、研修実施記録もある。又、随時のミーティングも行っており、職員教育システムは確立している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大分県老人福祉施設協議会のグループホーム専門委員会の研修に参加することで、他事業所との職員交流や情報交換の良き機会を得ている。又苑内にある二組のグループホーム間でも常に研鑽し合う機会を作っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に、利用者の了解を得て自宅訪問を行い、職員と馴染んだ後、時を見て体験来所を勧めて入居となるケースや、法人内のデイサービス利用者が入居を希望をすることも多い。説得ではなく馴染みをベースにした納得入居を心掛けている。		
と					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	広大な敷地の中に法人所有の田畑が広がって、利用者と職員の共同作業は此処でも日常的に行われている。草取りや収穫の喜び、作業中には互いを労わる心、食として口に運ぶ感謝の心、人生の先輩から体温の伝わる貴重な教訓の場となっている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現力の苦手な利用者のふとした仕草や、小さな表情の変化も見逃さず、職員間で共有しながらさりげなく確かめている。馴染みの関係を活かしつつ、生活暦に隠された能力の発掘等生きる喜びに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	小さな傷や異変、言葉遣いや声色等気付きは直ぐに家族へ発信している。過去の様子確かめつつ、ケアカンファレンスを繰り返して、現状に即したアイデアを組み込んだプランの練り直しを図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しに捕らわれず、日常の変化を見逃さないモニタリングを行っている。サービスの評価と計画とを照らし合わせながら必要であれば新たに計画を立て直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	興味をそそがれたときの急な外出要望、静養場所の自宅又は病院への変更等、その日の精神状態、体調、周辺事情による習慣の変更にも多機能性を活かした柔軟な対応をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全員が希望して、法人協力医療機関をかかりつけ医としている。定期健診、通院、訪問診療体制等への信頼からであり強制は無い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームでは終末期の看取りは行っていない。法人内に重度化対応の施設があり、希望により馴染んだ環境での看取りも可能である。入居時の契約で利用者、家族の同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉かけ、先輩としての尊厳ある対応に気を付けている。個人記録は厳重に管理され、利用目的は家族の了承を得ている。個室トイレ完備、個浴槽は希望により2名でも入浴可能と、プライバシーは守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活暦や潜在能力の掘り起こしを通して、その人らしい健やかな日々の支援を心がけている。寄り添いの中に活動も織り込みつつ安心安全を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週一回の選択食、月二回のおやつ作り、自家栽培の野菜や米を使った話題溢れる食卓風景である。調理の盛りつけ、後片づけも、強要することなく出来る人が行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週三回以上の入浴提供を基本に、状況に応じたシャワー浴、清拭、部分浴あるいは入浴日の変更と柔軟に対応している。その日の気分や希望により、気の合う人との相浴も可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	屋外の野菜作りや趣味の折り紙、編み物等好みに応じてボランティアの支援を受けている。出来る人には簡単な家事手伝いをお願いして感謝をしている。又数多くの訪問ボランティアのライブショーは多彩である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内に建立された観音堂へ日参する人、田畑の見回りの日課、買い物、美容院でのヘアアップ等職員も付き添いながら、共にリフレッシュをしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門、玄関は日中は開錠、個室も鍵を掛けないようにしている。要所にはセンサーを取り付て動ラインを素早くキャッチ、其の行動に秘められた想いに寄り添う対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	共同避難訓練を月一回、夜間対応訓練を年二回実施している。過去の浸水経験を活かして、グループホーム二階を、利用者や地域住民の避難場所として設計されている。災害備蓄については食、医、水、毛布の用意がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のカロリー摂取は栄養士の管理で行われ、個別の摂取量は食事、水分、おやつ共に克明に職員が記録している。体調を推し量る大切な参考資料となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内は、和風造りの中に生活機能性と趣味的遊び空間が織り込まれ、柔らかな間接照明である。四季折々の装飾で季節感を演出し、そこ此処に椅子やテーブルが配置されている。毎食の盛り付けや片付けも目前で行われて家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付け家具の上に写真、手作りや思いのこもった作品を飾り、個性を引き出している。希望があれば家具の持込も可能である。スリーモーターベット、洋服ダンスも備え付けられて配慮されている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム望
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市
記入者名 (管理者)	児玉 寿美
記入日	平成 21年 2月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「地域の中で地域と共に生きる」を共有すると共に、「挨拶・笑顔・掃除」の3つを基本とする、事業所独自の運営理念を玄関に明示し、家族または訪問者にも解りやすいようにしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	住み慣れた地域で暮らせるよう、また、利用者との関係を築くため、信頼される施設が作れるように、日々サービス提供場面において理念に基づき取り組みを実践できている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	日々の業務の中や生活の中で、職員で理念の共有を行い実践している。また、家族会の中や訪問時にも理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方へ行事への参加の声かけを行っている。また、日常的な付き合いは困難だが、町の人との関係作りは工夫している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の年間を通しての多彩な行事に地域の方にも呼びかけ、交流を図っている。尚、現在は自治会や老人会への参加はしていない。	○	地域との交流は行えているが「来て頂く」ではなく「呼んで頂く」交流が出来れば良い。例えば、老人会への参加など。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>老人会や集会などの地域の人が集まる場所で、施設の紹介や介護保険の利用方法の説明などを行っている。また、見学希望者には送迎サービスも行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価で見出された課題について、管理者・職員で理解し改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一回、運営推進会議の中で、前回の外部評価の開示を行った。入居者の生活状況を報告すると共に、運営推進会委員の方の意見を参考にしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催する研修会には、積極的に参加している。また、地域包括支援センターの職員と相談や助言を求めたりしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現時点では、希望者や活用を必要とする者がいない為、支援はしていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を行い、意識の向上に努めている。また、日常業務の中での虐待防止に努め、その思いを職員間で共有している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書により説明を行い、事業所の取り組みやケアの方針を納得していただき、同意の捺印を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個別にそれとなく話を聞き、不快に思っていること、納得できないことについては、本人の意見が自由に言えるような配慮を行い、不満解消に努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月新聞「陽」を送付すると共に、手書きの手紙、又、必要関係書類を同封し、個人に合わせた報告をしている。来苑時には、本人のアルバムを見て頂き日常生活を理解してもらっている。金銭については、面会時や電話で報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人の福祉サービス相談委員会で、苦情や要望など受けている。また、家族や利用者が意見や不満を気軽に云える雰囲気や機会を(来苑カードにメモ欄がある)設けている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>寮母会議や必要に応じた会議・ミーティングの中で、日々、サービスに対する意見や提案に耳を傾け、働く意欲の向上に努め、職員の声を業務に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況に合わせ必要に応じた対応ができるよう、勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>混乱や不安を最小限にするために、常に専従職員において支援している。また、異動においては利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。職員の移動があっても、支援の内容は変わらぬよう勉強会、話し合いを行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の目標を上げ、目標に向けて勉強会など行っている。尚、外部研修への参加も行っている。	○	段階に応じた年間計画は作成していないので、法人内の研修にも職員が参加することが出来るよう、計画を立てて取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや他施設等の見学の受け入れを行ない、お互いに情報交換を行ない、サービス向上に努めている。また、県内のグループホーム研修会にも参加している。	○	交換研修の予定もある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦を踏まえ、ミニバレーボール大会の実施を行い、ストレス解消に努めている。又、日々職員と話す場をとっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃のミーティングや会議での意見を聞いて、実践・評価を踏まえて楽しく働く事に喜びを持てるような取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活歴、ライフスタイルの情報を共有し、常に話の場を作っている。又、入居者からの相談にも耳を傾ける。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前には施設の見学を行ってもらい、日常生活風景などを見てもらっている。ご家族の不安や希望をよく話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の希望時に入居できない場合は、担当のケアマネージャー、家族と一緒に話し合いを行い、他サービスの利用等も支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の理解や了解の基で自宅訪問したり、利用者のデイサービスでの身体状況などの把握を行い、コミュニケーションを図り顔馴染みになるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状況を把握して、常に介護される立場ではなく、一人ひとりの能力に合わせた支援の中で喜びや生きがいにつながる、働きかけを行ないお互いが向上出来る関係を築いている。食事の盛りつけ・洗濯・片付け・野菜づくりが行える様な環境づくりを行ない、一緒に支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の楽しみや生きがい対策に取り組みを計画し、家族・職員が一緒に本人を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方の生活状況の報告を行っている。(面会時、電話、手紙の利用)特に、遠方にいる方には安心していただけるように努めている。また、外泊や外出も支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親族の方の面会も随時受け入れ、個人の居室で対応している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の中でお互いの力を出し合い、一緒に共働する支援を行っている。また、隣接する託児所の園児と畑作りを行い、一緒に育てる喜びや楽しみを利用者同士で励ましあい支えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に移ったお客様やその家族にも今までどおりの言葉かけを行ない、困ったときには相談に乗るなどの関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家から使い慣れた生活用品や仏壇などを置いて、その人らしく暮らし続ける為の思いや希望を把握し、本人の気持ちを尊重している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーからの、情報提供により今までの生き方や暮らし方を尊重し、プライバシーに配慮しながらその人らしい生活を支援している。又、本人とも話す機会をつくる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝・夕のミーティングの実施で情報を共有し、本人の「出来る事」「わかること」を見出している。又、精神面、身体面での支援のポイントを確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定例の家族会や面会の際に、問題点などを相談し、介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった場合や必要に応じた定期的な見直しを行ない、家族への経過報告も行っている。要介護認定の更新や、心身の状況変化に伴い見直している。	○	介護計画の見直しについては、家族のニーズや希望を話し合う機会を設け、家族の方の参加を促していきたい。 (家族の都合で出席できない事が多い)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実状やケアの中で気付いたことなどを記録し、職員間で共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望により病院受診や美容院等への外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方の力を借りながら、文化に触れ楽しめる機会を設けている。また、舞踊・本の読み聞かせ・押し花教室等の実施、民生委員や老人会の見学も受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、介護保険での他サービスの利用はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会、委員として出席をして頂いている。総合面での相談や助言を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による健康診断を実施。また、入所時に協力医を家族の方の希望により変更。緊急時には、主治医に連絡し速やかに対応でき、家族の希望する医療が適切に受けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は、適切なアドバイスをしてくれる。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の身体の状況を相談しながら、一人ひとりの健康管理や医療支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当看護師からの、情報交換や相談に努めている。尚、入院の場合は短期間で退院出来るように話し合い、必要な支援を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からの意向を聞き、主治医に伝えている。ターミナルは実施していない。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員は、かかりつけの医師からの情報を、寮母会議の中で共有し、重度化に向けたケアを家族とともに話し合う支援をしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転先の担当職員との情報交換を行い、今後の支援についてミーティングを行なっている。今までの生活が断続出来る様に支援する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り、確認できる入居者の方はチェックしている。排泄パターンや仕草を把握して、早めに声掛けやトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	裸になることの不安や羞恥心を考慮し、個人入浴を行っている。概ね、週三回以上を目安に入浴を行ない、個人に合わせたお湯の温度や時間にも工夫している。行事が重なった場合、午前中入浴や、次の日に入浴している。(月)、(水)、(金)	○	入居者の希望があれば、夜間浴にも取り組んでいきたい。また、楽しんで頂く様な工夫もしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	運動後、また食後の安静等の声掛けを行い、心身を休める場を作るようにしている。夜間、寝つけない場合は、話しをしたりお茶を飲んで頂いたりして対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合わせ、テーブル拭き・お盆拭き・洗濯物たたみ・畑仕事等それぞれおこなっている。	○	畑で収穫した野菜で、入居者の方達と一緒におやつを作っているが、回数を増やし楽しめる場面を多くしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は現在、職員が行っている。スーパー等に行った時は本人の希望を聞き、職員と一緒に購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や併設施設への交流の為の外出機会を多く設け、戸外に出かけられる計画を施行しているが、なじみの店や希望の所へは日常的に出かけていない。	○	外出の機会を少しずつ増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の行事には出かけるようにしているが、心身的な部分から限られた人しか外出していない。	○	外出の少ない入居者の方も、家族に呼びかけ一緒に外出することで、外出の機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、自分で手紙を書いたり、電話する方はいない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の設定は無く、いつでも誰でも訪問できている。家族の訪問が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で「カラダもココロも自由な施設です」「身体拘束ゼロ誓言」の施設として職員一同理解し、拘束をしないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を考え玄関にはセンサーを取り付けているが、日中はすべて鍵を開けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の状態や心情を受容し、行動把握をしながら配慮している。(居室にいる方もいるが時折、見回りを行う)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを排除するのではなく、特に注意するものについては、所定の保管場所を決めている。個々の能力に合わせて使用できるように身近に置いてあるものもある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告をする事で、事故防止の対策を考え実行している。尚、年間計画の中で毎月避難訓練を、ISO手順書マニュアルに沿って行っている。又、一人ひとりの身体状況を把握し、危険予測を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ISO手順書マニュアルに沿って行なっているが、定期的に訓練を行なってはいない。	○	急変や事故発生時の救急対応の訓練については、全職員が十分な技術は保たれていないので、定期的に勉強会を行なっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画で避難訓練を月に一回実施している。また、地域の方には法人が避難場所になっている事もあり、協力は保たれるものとする。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や個人の身体状況の変化において、家族との話し合いを必要に応じその都度もち、事業所の工夫や取り組み・方針リスクの発生状況の理解を説明し納得して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、また、体調不良時には職員が、状況を把握できるように身体状況の記録を残している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんのチェックを行い、服薬の変化を確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人別に排泄リズムを把握し、飲食物の工夫や運動に取り組んでいる。又、リハビリ体操を毎日行い、水分補給を多くとるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で出来る場合は声掛けにて促し、出来ない場合は毎食後の歯磨き・入れ歯の手入れ・うがいを介助にて行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーについては栄養士が管理を行なっている。食事・水分摂取量は、詳細に記録にしている。また、一人ひとりの利用者の食べ物・飲み物の好き嫌いなどの把握も出来ている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	来苑者には必ず、手洗いうがいを励行している。また、インフルエンザに対しては、予防接種を行なっている。法人の各事業所で保健所等の研修にも参加している。又、マスクの着用、疥癬などの皮膚疾患防止の為、シーツ交換、布団干しを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁の殺菌・消毒を定期的に行なっている。食材は安心な自己栽培(野菜)等を使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	本格的な数奇屋風の落ち着いた正面玄関となっており、玄関ロビーには手水鉢もある。又、掃除をまめにし、季節ごとの飾り物等を飾るように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を生けたりし、家庭的な雰囲気の中で季節を感じて頂く工夫をしている。また、浴室等の共有の場所は安心して、居心地良く過ごせる工夫が出来ている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家族談話室や畳の部屋・キッチンカウンターなど、生活リズムに合わせた環境となっている。和室には、堀コタツが用意されている。	○	ホール内でもテレビを見る人、話をしたい人、様々な場所が使用できる工夫が必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせる環境を整え、懐かしい馴染みの置物や家族の写真を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暖かい日には窓を開け開放的にし、自然の風を取り入れる様にしている。暖房の調節の程よく、冬の間は加湿器を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はトイレ・手すり等が設置され、車椅子は使用できる広いスペースは設けられている。浴室は、安全性を考えた工夫をしている。	○	浴室の手摺りを設置予定。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には個人の表札をかけて混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑の外回りは、日本庭園になっており、心と体を癒してくれます。(散歩を行ったり、日なたぼっこ等に行っている。)		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

豊かな田園風景の中で、本格的な数寄屋風の落ち着いた雰囲気のある正面玄関がお迎えします。日本庭園が、安らぎを感じさせます。また、裏庭には農園があり、四季折々の野菜を栽培し、入居者の方が作る喜びと育てる楽しみを一緒に体験し、収穫した野菜を材料におやつ作りを行います。心身ともにつろげるプライベートの個室、ヒノキのバスルームはやわらかく心を癒します。ホールにはオープンキッチンカウンターを設置し、近代的な優雅さと最高の設備を整えています。食材も安心も安全のものを使用し、食事メニューに配慮しています。ボランティア家族会も毎月一回行い、家族とのコミュニケーションを図るようにしています。法人の各イベントや他部署との交流会をはじめとする、多彩な行事に参加。元気になれる時間、豊かで楽しみのある毎日を提供し続けています。

私たちは、住み慣れた地域でその人らしく生きている人間としての尊厳を大切にしながら、ケアの充実を目指し、普通の暮らしが続けられるように支援します。I